

武庫川流域委員会

委員長 松本 誠様

平成 18 年 5 月 11 日

委員 土谷厚子

水田貯留及び河道対策について

1. 水田貯留の効果量について

篠山市の場合

米を作っていない面積（水田の面積－米を作っている面積）＝1514ha

果樹、野菜、花などを作っている面積＝910ha

治水利用できる面積(調整水田、自己保全水田、休耕地)＝1514－910＝604ha

$604/1514=40\%$

三田市の場合

米を作っていない 744ha

果樹、野菜、花など 368ha

治水利用できる 744－368＝376

$376/744=50\%$

水田のうち 60%ではなく 80%が治水利用できるとすると $2.8 \times 8/6 = 3.7$

約 3.7 m³/s の効果量が期待できます。

水田貯留は農家の協力が必要なため、総合治水を啓発する効果もあります。

2. 河道対策について

(1) 整備計画では河道掘削より堤防強化に優先順位を

TRD 工法は 1m あたり約 50 万円です。

掘りこみ河川でない区間は下流から 9km なので両岸 18km の堤防強化をした場合

$18000 \times 500000 = 90$ 億円 となり、河道掘削 230 億円より安くなります。

基本方針ではひき堤をして第 2 堤防を造ります。現在の堤防と第 2 堤防の間をグラウンドや市民農園などにして、現在の高水敷を掘削するとよいと思います。

(2) リバーサイド住宅について

リバーサイド住宅周辺は整備計画では全体計画の河川改修工事しか行わないという事なので、河道の分担量は計画規模 1/5 の 1900m³/s です。住民の安全のためにも河道の流下能力を高めるためにも、全戸移転をしてリバーサイド住宅のところを削って川幅を広げるとよいと思います。

3. 基本方針に新規ダムを入れなくても基本高水を上回る対策ができる事について

基本方針では人口減少や都市計画を利用して、危険な所に人が住まない政策を推進すべきだと思います。そこで、河道対策 4400m³/s 流域対策 111m³/s

遊水地 $39 + 4.3 + 4.2 = 124$ m³/s 利水ダム 417m³/s で 5052m³/s となります。